



NO.

いちよう

発行所

待乳山 本龍院

〒111 東京都台東区浅草7-4-1

-0032 TEL. 03(3874)2030

FAX. 03(3874)5280

解説

礼拝作法（おつとめのしかた）⑧

住職 平田真純

当山ご信徒が、待乳山の経本「大聖歡喜天禮拝作法」でおつとめする際の作法や意味をシリーズで解説いたします。

ご本尊に対しておつとめを励行することは、仏道修行の一つとあってよいでしょう。おつとめにおける修行とは、自らの精神と、ご本尊の真意・お導きが一体となるよう励むことだと思えます。それには、雑念を除き、集中することが大切になってきます。それがひいては心願成就への近道ともなるでしょう。

修行という言葉は、仕事や武道・芸道など、道を極めることがらにも使われますが、そこには単に技術等を学ぶだけでなく、心を素直にして、ものの本質を見極めるといふ努力が含まれています。

⑬真言

ご参拝の初心の方には、お経を誦誦し、正式な作法でおつとめするよりも、まず聖天様の真言（オンキリギヤクウンソワカ）と十一面観音様の真言（オンマカ

キヤロニキヤソワカ）を回数にこだわらずお称えすることをお勧めすることが多いのですが、これは、誰でも、いつでも、どこでも出来る修行法であると、多くの経典等で説かれているからです。雑念を除き、心を落ち着かせるという意味で、いわば心の深呼吸といつてもよいでしょう。ご本尊のおはたらきを示す真言を称えて、御本尊と気持ちの一つにいたしましょう。

「礼拝作法」においては、ご本尊の真言とともに、ご本尊と因縁の深い御尊体の真言と、仏様の功德を表す真言を、併せてお称えすることになっています。ご本尊のおはたらきは、ただ一尊だけで成り立っているものではなく、さまざまな縁の昇華であると感じていただければ幸いです。人間社会をはじめ、すべての現象と同じことです。

経本には、各真言の称える回数例が記されています。記載されている回数でなくてもかまいません。たとえば各真言三遍ずつでも結構です。聖天様と十一面観音様の真言を多めに称えていただければなおさら結構です。各自の時間や集中力にしたがって称えてください。

百遍とか千遍とか二十一遍など、多い数を数える場合は、数珠（念珠）を使います。数え方に関しては、紙面ではわかりづらいので、参拝の折に当山僧侶におたずねいただきたいと思います。

待乳山だより

本堂煤払いのお知らせ

十二月七日（月）、正午より本堂の今年一年の塵を払う煤払いを行います。当日のご参拝、お札のお受け取りなどは午前中のみとなりますのでご注意ください。



正月行事ご案内

特別即時祈祷 三が日 午後一時、二時、三時

本堂内陣にて新年の開運を祈願いたします。

祈祷料 三〇〇〇円

お屠蘇接待 三が日

本堂外陣において吉例の開運お屠蘇の無料接待がござります。

毘沙門天様の特別拝観 元日〜十五日

普段は本堂の左奥に安置されております浅草名所七福神の毘沙門様が拝観できます。

大般若講 大根まつり

一月七日（木）午前十二時より午後一時

大般若講の法要後、皆様の身体健全・厄除け祈願の風呂吹き大根をお配りします。無料整理券を九時から本堂でお配りします。

大根まつり一月五、七日お手伝いのお願い



大根まつりの前準備及び当日の運営のお手伝いを、五、七日両日ともお手伝いいただける方のみ募集いたします。寺務所にてお申し込みください。

募集人数 先着二十名程度

お宮参り・七五三参り

ご宝前でお加持を授けられました。尊天様のご加護で健やかに成長されることをお祈りしております。



御奉納

晴雅堂様より浮世絵を三点御奉納いただきました。



訃報

当山の写経世話人である大門蓉子様が、享年七十四才にて永眠されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

行事報告

十月十八日（日）、歓喜講祈祷会を執り行いました。法要終了後は信徒会館にて浪曲の会を催しました。十一月八日（日）、写経供養会を執り行いました。お写経を供養した後、外陣において左記の各巻を奉納された方々の表彰が行われました。

平成二十七年写経供養絵巻表彰者（敬称略）

- 三〇〇巻 白井美智子
- 二〇〇巻 細谷實得子 小林チエ 今井峰子
- 一五〇巻 齋藤陽久 水谷菊三郎 岩田京子
- 一〇〇巻 相馬効子 佐藤安津子 木村久子 菅原恒子
- 五〇巻 依田泰子 田中典代
- 工藤富代 長谷川和子 鈴木貞子
- 増田克己 小川一夫 鈴木孝宏
- 鈴木佳子 三田村道子 松浦昌考
- 小沼仲子 浜田美芽 矢倉恵津子
- 林由美子 戸田直美



- 朝まいるり会 十一月度表彰者（敬称略）
- 半年 渡邊洋一 一年 西原紀子
- 二年 野口健蔵 武笠清 西谷裕子
- 十年 西山恵子

十一面観音様御開扉

十二月八日（火）午前九時から午後二時

参拝 無料



例年の如く、本尊聖天様のお前立ち「十一面観音様」の御開扉がございませす。
午前九時に浴油終了後に、住職により御宮殿の扉が開かれます。午後二時の閉扉の法要まで内陣奥にて参拝とご焼香ができます。内陣に鎮座されている十一面観音様をご覧になれる、年に一度の機会です。皆様お誘いあわせの上、ご参拝ください。

星祭

十二月二十二日（火）午前十一時

講金 一、五〇〇円（二躰増毎五〇〇円）

送料二〇〇円（十躰ごと）

一年間の除災延命の祈願を行う星まつりを執行いたします。古くから夜空に輝く星は、人の運命を象徴するものとして尊ばれてきました。
定められた星の動きによって一年の運勢は左右され、吉凶を表すと考えられたのです。



納めの法要

十二月三十一日（木） 正午

大晦日、一年のご加護に感謝し、正午から本堂と境内の各末社で読経いたします。

十二月、一月の夜間開堂はお休みさせていただきます。



十二月行事予定

御宮殿御開扉

十二月八日(火) 午前九時から午後二時

参拝 無料

秘仏の御前立ち十一面観世音菩薩様を参拝できます。

星祭大法要

十二月二十二日(火) 午前十一時 講 金 一、五〇〇円也(一鉢増毎五〇〇円)

来年の除災延命祈願をいたします。一人一人にお守りを授与いたしますので、ご家族でお申し込みください。

朝まいり会

十二月一日〜七日 午前八時から八時半 会費 月 五〇〇円也

都合のよい日に、ご参加くださっても結構です。最終日には、お勤め終了後に食事作法を行います。

本堂煤払い

十二月七日(月) 正午から

恒例の煤払いを行いますので、お参りは午前中にお済ませください。

日曜勤行

十二月十三日(日) 午前九時

参加費 無料

初心の方も気軽にご参加いただけるおつとめの会です。

写経の会

十二月十三日(日) 午前十時/午後一時 会費

五〇〇円也

心を落ち着かせて写経することで、日常を離れ、自分を見つめ直しましょう。

※十二月の夜間開堂はお休みさせていただきます。

合同大般若法要

十二月二十五日(金) 午前十一時 法要料 五、〇〇〇円也

心願が成就し、より一層の御加護を頂くために、皆さんとご一緒にお上げする御礼の法要です。

納めの法要

十二月三十一日(木) 正午

この一年のご加護に感謝し、本堂を初め、境内の各末社にお参りいたします。

一月の行事

大根まつり 一月七日(木) 午前十一時 講 金 二、〇〇〇円也

百味講 一月二十日(水) 午前十一時 講 金 一、五〇〇円也

ご祈禱のご案内

聖天様独特の供養法である浴油供は、密教の中で最も深秘の法とされています。この供養法は聖天様のお力がより一層高められ、私どもが不可能と思われるような願い事でも、孫天様の不思議方便のお働きを得て、必ず成就させて頂けるのであります。

当山ではこの浴油祈禱を、毎朝開堂と同時に行っております。寺務所にて受け付けておりますので、お名前とお願いの内容、祈禱期間をお伝え下さい。

またご遠方の方やお急ぎの方は、お電話やお手紙でも受け付けております。どうぞお申込みください。

祈禱料

別座祈禱 壱万円以上(一週間)

浴油祈禱 三千五百円以上(一週間)

華水供 五百円/一日(お札は出ません)